目　次　Contents

はしがき：Good writing とは何でしょうか？ …… 5
本書をお使いになる先生方へ …… 7
この本で勉強すること …… 10

PART I

イントロダクション：Good writing を目指そう 11

Lesson 1　Good writing に必要なこと …… 12
Lesson 2　文章の種類と目的 …… 21
Lesson 3　文章の構成 …… 26

PART II

パラグラフ・ライティング：文章の種類と構成を意識しよう 37

Lesson 1　ナラティブ …… 38
Lesson 1-1　客観的報告のナラティブ …… 39
Lesson 1-2　自分について語るナラティブ …… 43
Lesson 2　描写 …… 50
Lesson 2-1　客観的描写 …… 52
Lesson 2-2　心情を重ねた情景描写 …… 58
Lesson 3　説明 …… 61
Lesson 3-1　手順・過程 …… 61
Lesson 3-2　定義 …… 70
Lesson 3-3　分類・例示 …… 80
Lesson 3-4　比較・対照 …… 91
Lesson 3-5　原因・結果 …… 101
Lesson 4　論証 …… 115

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

PART III

ミックス・モードのパラグラフ・ライティング：リサーチして書いてみよう 125

Lesson 1 リサーチペーパーとは 126
Lesson 2 発想法 129
Lesson 3 情報収集 134
Lesson 4 アウトラインから執筆へ 142
Lesson 5 執筆・推敲から完成へ 151
Lesson 6 実際の執筆 159
ワークシート 160

PART IV

資料 167

プロンプトの一覧表 168
Good writing のための評価基準：トレイト別・基準説明 172
チェックリスト読み手用 174
チェックリスト書き手用 176

引用・参考文献 179
あとがき 182
見出し一覧 184

Good writing の構成要素 巻末
Good writing のための評価基準：トレイト別・基準説明 巻末

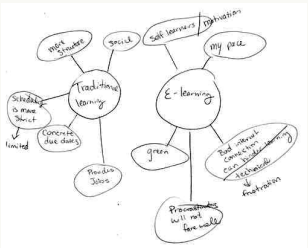
BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

はしがき：Good writing とは何でしょうか？

筆者の一人，田中は 2006 年まで大学で留学生に日本語を教えていました。国立大学に入学するためには，留学生は日本留学試験という試験を受けなければなりません。試験には「記述問題」があって，当時は 400 字の小論文を 20 分で書かなければなりませんでした。したがって，留学生たちは 20 分で書けるように，形式(「序論・本論・結論」などの構成や「まず・次に・最後に」「確かに～(だ)が，しかし」などの表現)を覚えて，大特訓をしていたようです。その結果，大学へ入学してきた留学生たちが書く小論文は，形式はきちんとしていましたが，画一的でオリジナリティが発揮されていないような印象を受けました。

7 年前に教える対象は日本人大学生に変わりました。日本人学生の書くものはどうでしょうか。限られた経験での印象ですが，アイディアがあっても，形式が伴わないのです。段落(形式的段落)が全くないものも少なくありません。構成も，序論がなくて，本論と結論のみというものもあります。アイディアはあるようですが，どうやら思いつくまま書いたという感じです。試しに，小論文を書いたときのメモを見せてもらうと，メモを書いた人のほうが少なく，そのメモも箇条書き程度で，これから書く小論文のアウトラインを作ったりマッピング*1 で情報を整理したりした人は一人もいませんでした。その結果，たとえ形式的な段落があっても，段落内の中身が整理されておらず，何が言いたいのか分かりにくいものもありました。それは，つまり「読み手」が意識されていない文章だと言えるのではないでしょうか。「読み手」を意識して書いたかどうか学生にアンケートをとったところ，意識していなかったという人が大半で，意識して書いたという人の中にも「読み手」は「先生」という回答がかなりありました(無論，教師も「読み手」ではあるのですが)。読み手が意識されないまま書かれているため，内容的にも自分のことを中心に書いて終わっているものが散見されました。

*1 ひとりごと　筆者は，英語話者の日本語小論文の下書きに見事なマッピングの図を初めて見たときに，こういうふうに考えるのかと，ちょっとした感動を覚えたものでした。



BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

本書では，日本語で，形式面でも内容面でも効果的かつ魅力的な文章が書けることを目指します。方法としては英語の essay[*2] の書き方，具体的には「パラグラフ」(日本語の「段落」に近い)の概念や essay の発想法を日本語の文章執筆に取り入れていきたいと思います。みなさんは英語の essay の書き方を勉強したことがありますか。英語の essay では序論，本論，結論という文章全体の構成に加え，各「パラグラフ」内の構成が明確に決まっています。1 つのパラグラフに書くトピック(アイディア)は 1 つです。また，essay では「読み手」を想定し，自分のことばかり書くことはありません。日本語と英語とでは文構造も違い，そのまま日本語の文章に置き変えることが難しい部分もあるでしょうが，アカデミック・ライティングやビジネス・ライティングのように「人」に読んでもらうための文章には，英語の essay の書き方は参考にできると思います。

さきほど「効果的かつ魅力的な文章」と書きましたが，言い換えれば，good writing です。 Good writing とは，言いたいこと(メイン・アイディア)が明確に分かり，それが文章全体を通して一貫している文章です。さらに，内容のみでなく，形式(構成)がしっかりし，読み手に対する配慮のあるものだと思います。ライティング評価の研究では，日本人は，文章の形式がきちんとしていなくても内容的に共感できる部分があると高く評価する傾向が見られます(田中・坪根，2011)。小説や随筆などの文学的文章ではそれは通用するかもしれませんが, 大学でのアカデミック･ライティングや社会に出てからのビジネス・ライティングにおいては，客観的にきちんと説明できなければなりません。それには，文章の種類(本書 PART I，PART II で学習する「レトリカル・モード」)を知り，それに適した展開方法を会得し，読み手を意識して書くことが有効です。英語のライティングを応用する本書で，みなさんのライティングが good writing にどんどん近づいていくことを願っています。

著　者

田中真理・坪根由香里 (2011)「第二言語としての日本語小論文における good writing 評価―そのプロセスと決定要因―」『社会言語科学』14 巻 1 号 , 210-222.

*2　日本語の「エッセイ」は随筆のことを指しますが，英語の essay は小論文のようなものです。パート I で説明しますが，日本語のエッセイは文学的文章に，英語の essay は説明的文章に属します。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

PART I

イントロダクション：
Good writing を目指そう

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

Lesson 1

Good Writing に必要なこと

Good writing とは次のような文章です。「読み手」がきちんと想定され，「読み手」への配慮があり，言いたいことが明確に分かり，それが文章全体を通して一貫している文章です。さらに，目的に応じた文章の種類が選ばれ，それに合った構成が意識され，流れがよく，日本語がその場にふさわしく正確である，というような条件がつきます。

この本の最後に折り込まれている，カラー印刷の「Good writing の構成要素」の図を見てください。これは good writing をモデル化したものです。

一番上に「ライティングの設定」と「ライティングのプロセス」があります。これらは，文章を書きあげるときの全体的な枠組みです。

その下に「読み手」「文章」「書き手」があります。右側の「書き手」から左側の「読み手」に矢印が出ていて，その間に「文章」があります。「書き手」は常に「読み手」に向かって「文章」を書くことを表しています。

また，「読み手」「文章」「書き手」について，それぞれ考慮すべき事柄が青，黄，赤，橙，紫のボックスの中に示してあります。「読み手」の下には「A：Writer Responsibility」があります。これは書き手が読み手を想定し，配慮して書くことを表します。「文章」の下には「B：内容」「C：モード」「D：構成・結束性」が並んでいます。「B：内容」は，書き手が言いたいことを，文章の中で，そしてパラグラフの中で，一貫性をもって伝えるために必要な要素です。さらに「B：内容」の下には「知識」と「知識をまとめる方法」があります。これらは伝えたいことをまとめるために必要な要素です。「C：モード」「D：構成・結束性」は，文章の目的に応じた「文章の種類」を選び，それに合った「構成」を意識して，流れよく書くための要素です。「書き手」の下には「E：言語面」があります。その場にふさわしい表現形式で，正確に日本語を書くために意識すべき要素です。それでは，この図に沿って，good writing に必要な要素を説明していきます。

1. ライティングの設定

文章を書くには，まず，図の一番上にある「ライティングの設定」，すなわち，「誰に向かって，何を，どのモードを使って，どのような流れで，どのような場で(どこに)，述べるのか」という全体的な設定を考えます。例えば，「新入生」に向かって，

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

Lesson 2

文章の種類と目的

1. 文章の種類

言語を問わず，文章は，大きく文学的文章と説明的文章の 2 つに分けられます[*8]（**図 1**）。文学的文章は，書き手が基本的に自由に書くもので，小説，詩，随筆（日本語のエッセイ[*9]），紀行文，日記，俳句，短歌などです。説明的文章とは，基本的に読み手に情報を与えるもので，新聞などのニュース記事，論説文，解説文，書評，投稿文，大学でのレポート，論文，企業などにおける報告文，企画書などがこれに該当します。本書では，説明的文章を中心に学びます。

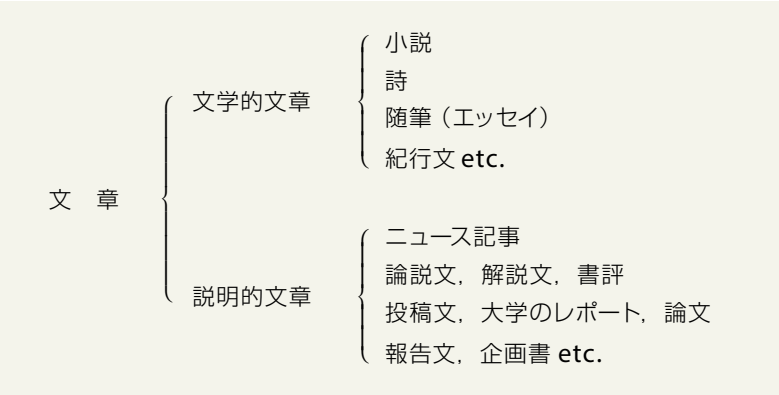


図 1　文章の種類

*8　芸術的文章と実用的文章に分けられることもあります。

*9　日本語の随筆のことをエッセイとも言いますが，英語の essay とは異なります。日本語のエッセイは文学的文章に属するのに対し，英語の essay は小論文のようなものを指し，説明的文章に属します。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

ここで例として示した新聞報道記事はナラティブが主要モードです。同様に大学で書く「卒業論文」は(4)の論証が主要モードですが，書き手の主張を論証するためには説明も必要で，(3)の説明モードの文も含まれ，複数のモードから成っていると言えます。各モードの説明とその執筆はPART IIで，複数のモードから成る文章の執筆はPART IIIで説明します。

それでは，「文章の目的とモード」のまとめとして，TRY! ❷をやってみましょう。

TRY! ❷

次の □ の中のトピックについて，4種のモードを使って文章を書くとします。□ の中からトピックを1つ選んで，**表2**の「文章の目的」を見ながら，モード別にタイトルを考えてみましょう。(3)説明モードはタイプ(a)～(e)を考えてください。

表には「うどん」をテーマとして選んだ場合の例が示してあります。タイトルは「うどんについて」のような漠然としたものではなく，例のように具体的なタイトルにしてください。

うどん　スカート　船　英語教育　憲法　オリンピック

モード・タイプ	例：うどん	
(1)ナラティブ	うどんの歴史	
(2)描写	今まで食べた中で一番おいしかったうどん	
(3)説明 (a) 手順・過程 (b) 定義 (c) 分類・例示 (d) 比較・対照 (e) 原因・結果	(a)「きつねうどん」の作り方 (b)「たぬきうどん」とは (c) 日本各地のうどんの分類 (d)「うどん」と「そば」 (e) なぜうどんの価格が上がったのか	
(4)論証	うどんは手打ちであるべきか	

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

CHALLENGE!

TRY! ❷(p.25)で考えたタイトルについて，各モード(ナラティブ，描写，説明(5つのタイプのうち，どれか1つ)，論証)のパラグラフを1つずつ，5文程度で書いてみましょう。まず，トピック・センテンスを考えます(Lesson 3の2.)。そして，それを支えるサポーティング・センテンスを書き(Lesson 3の3.)，最後にコンクルーディング・センテンスを書きます(Lesson 3の4.)。情報収集する際には，インターネットや本など，何を参照しても構いません。

ナラティブ　タイトル：

描　写　タイトル：

説明(タイプ：　　)　タイトル：

論　証　タイトル：

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

Passport to the PART II

PART I で勉強してきたのは，以下のことです。

① Good writing に必要なこと：誰に向かって，何を，どのモードを使って，どのような流れで，どのような場で（どこに）

② 文章の種類と目的：レトリカル・モード

③ 文章の構成：パラグラフ，トピック・センテンス，サポーティング・センテンス，コンクルーディング・センテンス，ミクロ構成とマクロ構成，メタ言語

PART II では，上の①②③をモード別に学習していきます。

①②③を身につけた皆さんには PART II へのパスポートが手渡されました。次のゲートへ進みましょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers